

ダイオキシン類調査結果 概要

●ダイオキシン類のパターン解析

ダイオキシン類の同族体の組成パターンが発生源により特徴があるため、それらを比較することにより発生源を推測することが可能。



注)
 ・同族体
 「置換数が異なる化合物の一群」。PCDDやPCDFの場合、塩素の数が1から8までであるので、それぞれ8種類の同族体が存在する。

■分析結果から

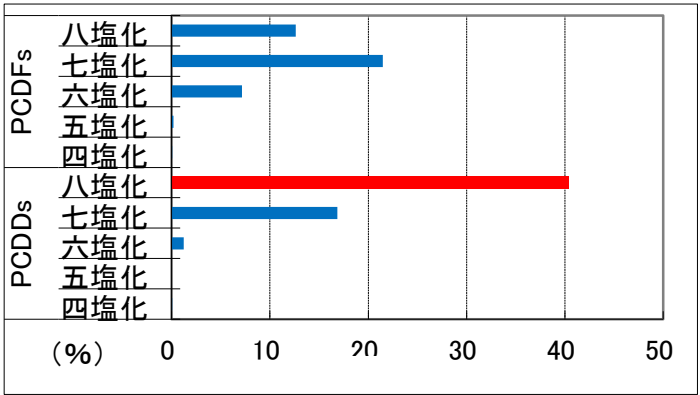
・ 土壤中のダイオキシン類の同族体のパターンを見ると、PCDDsの八塩化が多く検出されている。(図1、図2)

・ 現有施設の排ガスパターンと異なる
 ・ 別紙②-1から土壤中にダイオキシン類は蓄積されていない(増加傾向にない)

現有施設の排ガスの影響というより、他の影響を受けている可能性が大きいと考えられる。

当該土地の利用歴が影響していると考えられるが、原因を特定するのは困難。

参考：農薬PCP(1971年有効期限)の同族体分布図



出典：日本の農業中のダイオキシン類(1999年環境化学会発表内容より)

同族体(実測値)による比較

